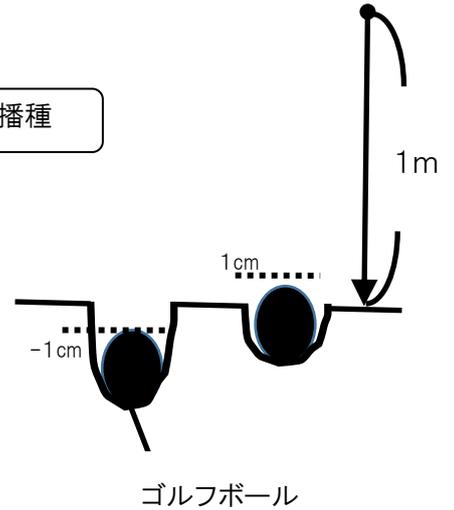


1. ほ場の準備・土壌条件

- (1) 高低差の大きい圃場は耕起前に土を移動させ、均平にする。
- (2) 代かき後、播種までの日数が長くなると雑草の発生が多くなり、除草剤の効果の低下が懸念されるため、代かきは播種日から逆算して行う。



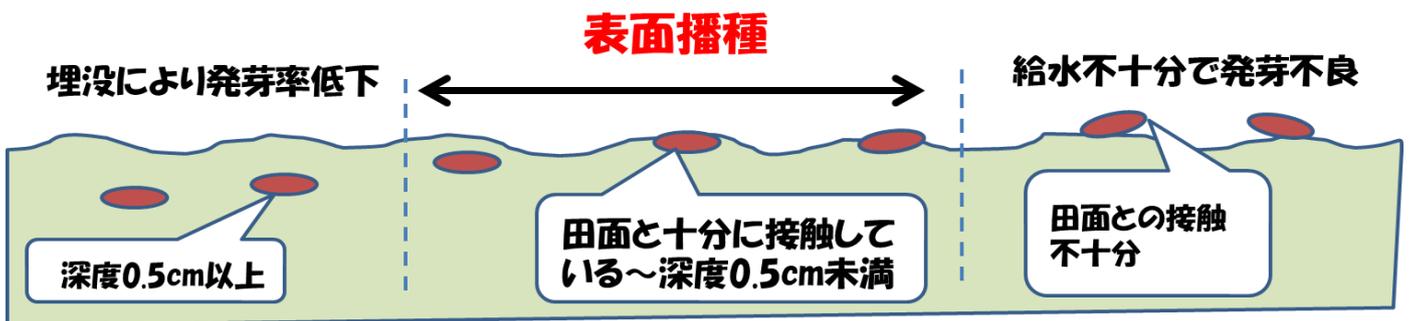
- (3) 代かきは、均平化に努めるように丁寧に行い、枕地等の旋回部分は、練らないように注意する。
- (4) 播種時の土壌の硬さは移植以上とし、代かきと播種の間隔で調整する。田面の硬さは、ゴルフボールを1mの高さから落下させた場合に田面からの露出高さ1～-1cmを目安とする。



種子が土壌にもぐると発芽不良となります

2. 播種、初期除草剤の散布

- (1) 播種は、日平均気温が15℃以上になる時期(平年値 4月29日)とする。4月末～5月上旬頃を目安とする。
- (2) 鉄コーティング種子は、土中に埋没すると出芽が不安定となるので、表面播種となるように注意する。



- (3) 播種量及び施肥量

播種量(10a)	施肥量(10a)	1回目の除草剤 (播種時または播種直後)
乾籾: 3～3.5 kg (コーティング種子で 4.5～5.3kg)	BBコシ直播一発くん 30～35 kg	ヒエクリーン 1 キロ粒剤 1 kg/10a

3. 播種後の水管理

(1) 播種後～播種7日後

除草効果を高めるため5日間は湛水状態を保ち、その後、自然落水する。

(2) 播種7日後～14日後

落水後は、**苗立ち数確保のため7～10日間は落水状態とし、飽水管理で土壌水分を保持する。**

4. 2回目の除草剤の散布

(1) 散布する際には、稲及びノビエの葉令を必ず確認する。

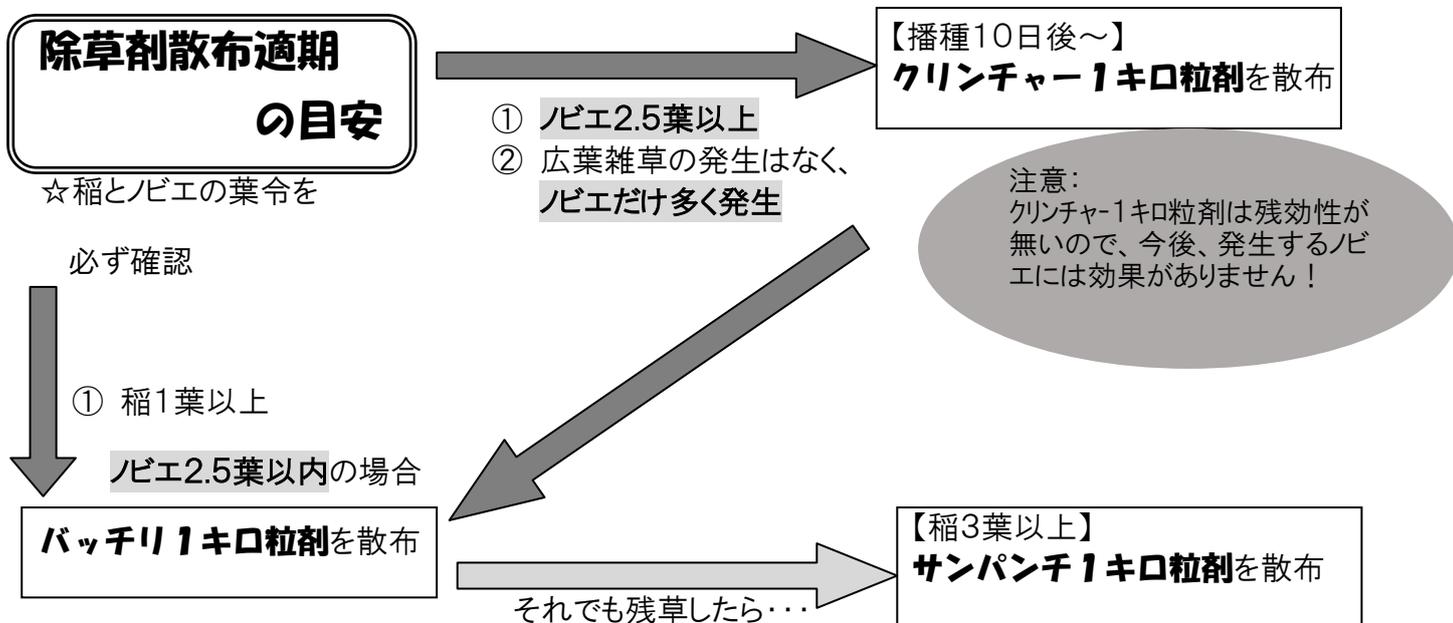
(2) 入水後1日おいて、水が落ち着いてから散布する。

(3) 薬剤の効果を高めるため、除草剤の散布後3日間は湛水状態を保ち、7日間は強制落水しない。

【使用時期と注意点】

	除草剤名	使用量(10a)	使用時期	備考
2 回 目	バッチリ1キロ粒剤	1kg	稲出芽始め～ ノビエ2.5葉期まで	入水後 (散布前に、必ず軽い田干しする)

※ 「1回目に播種時処理(ヒエクリーン1キロ粒剤)+2回目」の体系処理が基本です！！



☆直播についてのお問い合わせは、各JAの営農担当者

または、石川農林総合事務所農業振興部TEL:076-276-0371まで。

